教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和4年2月28日

氏　名　渡邊晃一朗

所　属　生涯学習基盤経営　コース

学籍番号　23-207008

指導教員名　影浦峡

1．研究課題　アカデミックライティング教育のための引用・参照に関わる要素の分析

2．報告する学術活動の実施期間　令和4年2月16日　～　令和4年2月18日

3．日本学術振興会特別研究員（DC）の現在の採用状況　□DC1　□DC2　☑採用無し

4．学術活動

☑国外　□国内
□①英語論文公表
□②研究科教員の研究プロジェクト参加
□③フィールドワーク
□④国際会議（□研究発表　□運営補助　□出席のみ）
□⑤研究会（□研究発表　□運営補助　□出席のみ）
□⑥研究指導委託
□⑦留学
☑⑧国際研修
□⑨国際インターンシップ
□⑩その他（具体的に：　　）

5． 学術活動実施の概要

※上記４で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

① 英語論文公表
（著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要）
② 研究科教員の研究プロジェクト参加
（プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間（年月日）及び活動頻度、プロジェクトの概要）
③ フィールドワーク
（調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間（年月日）及び活動頻度、調査先の概要）
④ 国際会議
（研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式（口頭・ポスター等）、発表年月日、発表内容等の概要）
⑤ 研究会
（研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式（口頭・ポスター等）、発表年月日、発表内容等の概要）
⑥ 研究指導委託
（派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間（年月日）、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要）
⑦ 留学
（派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間（年月日）、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要）
⑧ 国際研修
（プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間（年月日）、プログラム概要、研究発表内容等の概要）
⑨ 国際インターンシップ
（プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間（年月日）、具体的な活動、プログラム内容等の概要）
⑩ その他（具体的な活動、活動期間（年月日）及び活動頻度等の概要）

学術活動区分 （①～⑩を記入）	⑧

・プログラム名
グローバル・リーダー育成、欧州研修プログラム

・派遣先機関
ストックホルム大学教育学部

・国・都市名
オンライン

・派遣期間
2022年2月15日（月）～2022年2月17日（水）日本時間 17 時～20 時

・プログラム概要
ストックホルム大学教育学部の学生との共同での研究発表と質疑応答

・研究発表内容等の概要
句読点の用法を明らかにするために、スタイルガイドの分析とコーパスの分析を行い、その成果の一部を発表した。本研究では最終的に句読点の個別の事例について、その用法を判別できるような知見を得ることを目指している。このために、(1)どのような用法が存在するのか、(2)各句読点において用法がどのように識別できるのかの２点を明らかにする。(1)については、スタイルガイドにおいて規範として示された用法を列挙し整理することと実際のコーパスを観察し同様に用法を列挙し整理することを行った。(2)については、人手で用法を識別するための分類フローの構築を行った。本発表では具体的に引用符とイタリック体を取り上げつつ紹介する。

（注） ① 年月日は西暦で記入してください。
② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、２つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6．　学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

・目的と成果

本研究活動の目的は、「教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修」における後者の目的、すなわち「研究成果の海外への発信」である。今回は特に実際の英語での研究発表と質疑応答、そのための準備を含めて国際的な場での研究発表と議論のためのスキルの習得及び実践的な経験の蓄積を行えた。

また、質疑応答を通じて、アカデミックライティング教育の実践での応用を見据えた際に考えられる具体的なコメントを得られた。特に教育を考えた際に共時的に見られる差異があり、それのどのように一般的な理論において捉え、またそれを実際の運用においてどのように教育を通じて普及させていくのかという点についてのコメントがあり、教育的応用を考える際に重要な示唆を得られた。

・自身の研究課題とのつながり

英語での研究発表の経験を蓄積することで、国際的な学術コミュニケーションに必要とされる経験の蓄積を目的の 1 つとしている。この経験は今後の国際的な学術活動において研究内容の発信の際に不可欠な経験であり、またその基礎となる技能を身につける過程として位置づけられる。